

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地					
#REF!	昭和51年4月1日	竹内 聖二	〒 951-8133 (住所) 新潟県新潟市中央区川岸町2-14-3 (電話) 025-266-1651					
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地					
学校法人 新潟理美容美容専門学校	昭和29年12月12日	早川 幹夫	〒 951-8133 (住所) 新潟県新潟市中央区川岸町2-14-3 (電話) 025-266-1651					
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
衛生	衛生専門課程	美容科	平成11(1999)年度	-	平成28(2016)年度			
学科の目的	美容師国家資格取得と共に、実践的且つ専門的な授業を通じ知識、技術を身につけ社会から信頼、期待される美容師を養成し、創造性に富み、時代に合致した人材を育成することを目的とする。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	美容師国家資格 文部科学省後援 色彩検定 日本ネイリスト技能検定 山野流着装着物着付師 中退率 6.4% 中退者12名 令和6年4月1日時点において在学者188名(令和6年4月1日入学者含む) 令和7年3月31日時点において、在学者176名(令和7年3月31日卒業者含む)							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 67 単位	〇〇 単位時間 21 単位	〇〇 単位時間 0 単位	〇〇 単位時間 30 単位	〇〇 単位時間 0 単位	〇〇 単位時間 16 単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)					
320人	151人	0人	0%					
就職等の状況	■卒業者数(C)		92人					
	■就職希望者数(D)		91人					
	■就職者数(E)		88人					
	■地元就職者数(F)		44人					
	■就職率(E/D)		96%					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		50%					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		96%					
	■進学者数		0人					
	■その他							
	(令和6年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)							
■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) 美容室 プライダル まつ毛エクステンションサロン grico Lond ALICe by AFLOAT adorable 他								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載							
当該学科のホームページURL	https://www.niigataribi.ac.jp/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数					〇〇 単位時間		
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					〇〇 単位時間		
	うち企業等と連携した演習の授業時数					〇〇 単位時間		
	うち必修授業時数					〇〇 単位時間		
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					〇〇 単位時間		
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					〇〇 単位時間		
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					〇〇 単位時間		
	(B: 単位数による算定)							
	総授業時数					67 単位		
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					3 単位		
	うち企業等と連携した演習の授業時数					0 単位		
	うち必修授業時数					47 単位		
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					47 単位		
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					0 単位		
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					2 単位		
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを遡算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)						8人	
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)						0人	
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)						0人	
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)						0人	
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)						0人	
	計						8人	
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数						8人		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
業界における新たに必要とされる実務に関する知識、技術、技能を企業との連携により教育課程の編成(授業内容・方法の改善・工夫等)を行い、必要な情報の把握及び分析をしたうえで、教育内容に反映させる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

実践的かつ専門的な教育課程を編成するために企業等との連携体制を確保し、教育課程編成委員会の意思を活用するために実際の授業編成を行う前に委員会を開催し教育課程の編成を行う。また、教育課程編成後の効果についても検証を行い教育課程編成委員会において報告し、改善を行うものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
早川 靖幸	HAIR feel 代表	令和6年6月29日～令和8年6月28日(2年)	③
橋本 昌樹	株式会社レジーナ	令和6年6月29日～令和8年6月28日(2年)	③
竹内 聖二	新潟理容美容専門学校 校長	令和6年6月29日～令和9年6月28日(3年)	—
長浜 尚	新潟理容美容専門学校 事業推進部長	令和6年6月29日～令和9年6月28日(3年)	—
鈴木 愛弓	新潟理容美容専門学校 教務主任・美容科主任	令和6年6月29日～令和9年6月28日(3年)	—
高橋 光	新潟理容美容専門学校 理容科主任	令和6年6月29日～令和9年6月28日(3年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(5月、11月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年7月8日 10:00～11:00

第2回 令和6年12月9日 10:00～11:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

美容技術以外でも求められているSNS等の講座(座学)をやってみてはどうかと案を頂き、1学年の授業に社会生活としてSNS等に使用できる動画編集の授業を取り入れる。実務実習の期間について長すぎるのではないかとご指摘をうけ、例年の半数の日程で行った。サロン様側からは、短期間でメリハリのある実習だったと高評価を頂いた。アイブロウサロンが増加していることを受け、授業に取り組んではどうかという案を頂く。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 基礎的な知識や技術をベースに企業等との連携により、それを生かした実践的且つ専門的な知識や技術を高める。また、知識や技術のみならず技術者としての心構えや接客、カウンセリング等も、実習における企業との連携で高めていく必要がある。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 授業内容に関して基本的にアイモデル(人頭)を使つての技術習得が中心となるが、実際のサロン現場で実践的な技術や接客などを学ぶ機会も重要な授業である。学修成果に関しては、技術ひとつひとつに細かくチェックを受けてより正確なテクニックを修得するとともに評価表に記入してもらい、自己の能力向上や振り返りなどの改善等に活かす。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
美容実習	ヘアカラーの基礎知識を学び基本的な塗布技術、応用技術をモデルウィッグや人間モデルで実践的に行う。	株式会社ミルボン
総合技術	ブライダル(洋装)において「ヘアスタイル」「メイク」「ネイル」「ドレス」をシチュエーションから様々なパターンを想定しながら実際のモデルを通じて学ぶ。	株式会社TUCCI
総合技術	スタイルによって違う、カット、スタイリング方法を基本から学ぶ	GACF

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 実務に関する知識、技術、技能、授業及び学生に対する指導力を高めるために、企業等から講師を招く研修、職能団体等が実施する研修などを企業と連携して計画的に受講する。教員の経験や職務に見合った系統的内容にし、現状や時代の流れに即した研修になるように常に見直しを図る。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 即戦力養成講習会	連携企業等: 公益社団法人日本理容美容教育センター
期間: 令和6年8月6, 7, 22, 23日	対象: 理容科教員・美容科教員
内容: ハンドマッサージ技術及び頭部のセット技術	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 即戦力養成講習会	連携企業等: 公益社団法人日本理容美容教育センター
期間: 令和7年8月5, 6, 7, 18, 19, 20日	対象: 理容科教員・美容科教員
内容: ハンドマッサージ技術及び頭部のセット技術	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校で定めた評価項目に関する自己評価を積極的に行い、学外の関係者による評価によって透明性や客観性を高め、学校運営の改善を図ると共に業界や社会に対してより良い人材の育成と輩出につとめる。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1 理念・目的・育成人材像 1-2 職業教育の特色 1-3 学校の将来構想 1-4 学生、関係業界、保護者への周知 1-5 業界のニーズに向けての方向づけ
(2)学校運営	2-6 運営方針 2-7 運営方針に沿った事業計画 2-8 運営組織や意思決定機能 2-9 人事および給与の規定 2-10 教務・財務等の意思決定システム 2-11 コンプライアンス体制 2-12 教育活動等に関する情報公開 2-13 情報システム
(3)教育活動	3-14 教育課程の編成・実施方針 3-15 教育到達レベル 3-16 カリキュラムの体系的な編成 3-17 工夫・開発などの実施 3-18 関連企業・業界団体との連携 3-19 実践的な職業教育 3-20 授業評価 3-21 外部関係者からの評価 3-22 成績評価、単位認定、卒業判定の基準 3-23 資格取得 3-24 指導教員確保 3-25 関連分野における教員確保 3-26 教員の指導力育成 3-27 職員の能力開発
(4)学修成果	4-28 就職率 4-29 資格取得率 4-30 退学率 4-31 卒業生・在校生の活躍及び評価の把握 4-32 卒業後のキャリア形成
(5)学生支援	5-33 進路・就職に対する支援体制 5-34 学生相談 5-35 経済的な支援体制 5-36 健康管理 5-37 課外活動 5-38 生活環境の支援 5-39 保護者との連携 5-40 卒業生への支援体制 5-41 社会人ニーズ 5-42 高校との連携 5-43 再教育プログラム
(6)教育環境	6-44 設備 6-45 教育体制の整備 6-46 防災
(7)学生の受入れ募集	7-47 高校等に対する情報提供 7-48 学生募集活動 7-49 正確な情報提供 7-50 学生納付金
(8)財務	8-51 財務基盤 8-52 予算・収支計画 8-53 監査 8-54 財務情報の公開
(9)法令等の遵守	9-55 法令、設置基準等の遵守 9-56 個人情報 9-57 自己評価の実施と改善 9-58 自己評価の公開
(10)社会貢献・地域貢献	10-59 社会貢献・地域貢献 10-60 学生ボランティア活動 10-61 公開講座・教育訓練の受託
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校運営、教育活動学修成果など概ね適正な成果をあげているが、学生の退学率や離職率を下げる取り組みに関する意見をうけて学生面談の時間を多くとり、問題の早期発見に繋げている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
阿部 勇	新潟県理容生活衛生同業組合	令和6年6月29日～令和8年6月28日(2年)	業界関係者
室橋 鉄也	新潟県美容業生活衛生同業組合	令和6年6月29日～令和8年6月28日(2年)	業界関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()
URL: <https://www.niigataribi.ac.jp/guide/disclosure/>
公表時期: 令和6年5月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の関係者が学校運営及び教育活動等に理解を深めていただき、企業との連携や協力の推進に資するために学校運営及び教育活動等の状況に関する情報を提供し説明する取り組みを行う。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校理念 教育理念 アドミッションポリシー カリキュラムポリシー 理事長名及び校長名 所在地 連絡先等 教員の状況 学校の沿革、歴史 学校保健安全計画
(2) 各学科等の教育	入学定員及び 総定員 カリキュラム 成績評価及び卒業 学習の成果として取得を目指す資格 資格取得、検定試験合格等の実績 卒業後の進路
(3) 教職員	教職員名簿 担当課目
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育の取組状況 就職支援の取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事の取組状況 課外活動
(6) 学生の生活支援	就学生活支援の取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	金額 納入時期 内訳等 特典制度 奨学金制度と学費サポート制度
(8) 学校の財務	財務計算書類
(9) 学校評価	自己評価報告書 学校関係者評価報告書
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()
URL: <https://www.niigataribi.ac.jp/guide/disclosure/>
公表時期: 令和6年5月1日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			関係法規・制度	美容師法などの法令・制度の意義や内容を中心に、美容師の社会的責任や論理を学ぶ。	2	30	1	○			○		○		
2	○			衛生管理	公衆衛生全般について学び、感染症の知識や消毒の方法、目的について学ぶ。	1・2通	90	3	○			○		○		
3	○			保健	人体の構造と機能、皮膚や毛髪の内容成分についての幅広い知識を学び実践にいかす。	1・2通	90	3	○			○		○		
4	○			化粧品化学	化粧品の原料や配合などの成り立ち、性状、使用目的、社会的意義や特性について学ぶ。	1・2通	60	2	○			○		○		
5	○			美容技術理論	美容業に用いられる器具、機材の種類や目的を理解し正しい取り扱いを学ぶとともに理容の基礎的な技術理論を身につける。	1・2通	150	5	○			○		○		
6	○			文化論	美容業の歴史やファッションの変遷などを通じ表現力やデザインを学ぶ。	1・2通	60	2	○			○		○	○	
7	○			運営管理	経営管理の基礎を学び、接客法や消費者対応の基本的事項を学ぶ。	1・2通	30	1	○			○		○		
8	○			美容実習	技術理論に即して基本技術から最新技術まで幅広い技術を学ぶ。	1・2通	900	30				○	○	○	○	
9	○			総合技術	基本的技術をもとに、高度な技術の習得をめざし、第一線で活躍しているスタイリストから実践技術を学ぶ。	1・2通	300	10				○	○	○	○	
10	○			作品制作	コンテストや作品づくりを通じて基礎的な技術、応用技術を駆使し創造的なデザイン、スタイルを学ぶ。	1・2通	60	2				○	○	○		
11	○			サロン実務実習	実際にサロンワークを実習することでより実践的な技術や知識を身につける。	2	60	2				○	○	○	○	
12	○			国家試験対策	美容師国家試験合格に向け、課題に取り組む。	2	60	2				○	○	○		
13	○			芸術	様々な芸術を学び感性を高め、また色彩の知識により似合わせをカラーコーディネートで学ぶ。	1	30	1	○			○		○		
14	○			社会生活	美容に関連した外国語や社会福祉を学ぶ。	1	30	1	○			○		○		
15	○			ヘアスタイル画	ヘアデザインを細部まで描くことで、より明確な表現や技術へとつなげることを学ぶ。	1	30	1				○	○	○		
16	○			接客マナー	美容師本来のサービスの意味や、実践に即したサービスの在り方を学ぶ。	2	30	1				○	○	○		
合計						16	科目	67 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 所定の課程を修了し成績評価の上、卒業を認定された者に卒業証書を	1 学年の学期区分	3 期
履修方法： 所定の教科課程を受講	1 学期の授業期間	14 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。